小さなコラム　その53

みちくさ いたずら こどものじかん

令和2年 12月 師走（しわす）

新山 裕之

冬至（とうじ）（２１日）… 東京では晴れの日が続き、乾燥が進む季節です …

日が暮れるのが早くなり、一年で一番昼間が短く、夜が長くなるのが冬至です。それ以上に東京では毎年晴れの日が続いて乾燥が進み、園庭に何度も水をまくのが日課になる季節です。そして、わくわく池の水が枯れていることに気付いた子どもたちは…。

＜麋角解（さわしかのつの おつる）　１２月２６日～３０日＞

冬至の次候は「麋角解」です。麋（さわしか）とは、大鹿のことで、一年に一度生え変わる鹿の角がこの時期に落ちて、春には新しい角が生えてくるのだそうです。

＜みんな花マル❀、頑張った音楽会！＞

音楽会は、どの学級もとても頑張ってすてきな姿を見せてくれました。歌や合奏は、音が揃うことで気持ちが揃ったことを体感することができ、それが仲間同士のつながりになっていきます。全学級の出番が終わった後、それぞれの学級に出向き、子どもたちにも先生たちにも大きな花マル❀をあげてきました。保護者の皆さんの感染予防への協力や徒歩での来園なども含め、無事に音楽会ができたことに心から感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

＜いつの間にかクリスマス…＞

音楽会の演目は、クリスマスにちなんだものが多かったのですが、音楽会への取り組みと平行して、どの学級でも、寝ている間にプレゼントを届ける遊びが流行っていました。子どもたちにとって、クリスマスやサンタクロースは心がとびきりワクワクするものなのです。園内がそんな雰囲気に包まれた２５日の朝、園庭には不思議な跡が残っていました。保育室には白い袋が置いてあり、中には包装紙に包まれたプレゼントが入っていたと、子どもたちは大喜びでした。

＜白い袋に入っていたものは＞

各学級の壁面に飾ってあったのは、ちょうど届いたプレゼントが入る入れ物になったようでした。いろいろなことに楽しみながら頑張ってきた２学期の最終日に、子どもたちへのご褒美が届いたのかもしれません。その日の終業式は、どの学年も態度が立派で、その奥に見える心の成長に思わず目頭が熱くなるほどでした。毎日の小さな行いが積み重なって大きな行事を創り上げ、そこでの一つ一つの出来事が確実に血肉となっていることをうれしく思うひとときでした。

年少組はクリスマスツリーの飾り

年中組は靴下に折り紙のサンタさん

年長組は細長い紙を編み込んだ袋を

誕生会にはぶうちゃんサンタが登場

立派な態度で参加できた終業式

25日の朝、園庭には
不思議な跡が残っていました

どの学級にも大きな白い袋、
そしてその中にはプレゼントが…